

第2回 医療機器産業ビジョン研究会・検討ワーキンググループ

議事要旨

<スタートアップの強化と大企業との連携強化>

- ・ スタートアップを買収することで、新たな領域への参入や自社技術の展開など、リスクの高い領域にチャレンジする日本企業や、技術力やスピード力を評価され、海外企業と連携、製造を担っている日本企業もある。リスクの高いところへのチャレンジ、スピード感のある開発は非常に重要。
- ・ 大企業やスタートアップの開発の中には、日本企業の技術があつてこそ開発できる案件もあると考えられ、日本においても、スタートアップや異業種の参入を促進する環境整備とそれらを大企業に繋ぐ仕組みの検討が必要。

<医療機器版 CDMO 等のグローバルでの分業体制、連携策の検討>

- ・ 日本は一気通貫型の開発が多い一方、米国はスタートアップや CDMO を活用することでリスク分散、効率的な開発を進めている。技術革新が急激かつ広範囲にわたる現在、全てを医療機器メーカーが自力で担うのは困難で、日本においても、水平分業をより推し進めるため、CDMO やベンチャーの振興がより重要。
- ・ 異業種からの参入については、成功事例も出てきている一方、中小企業の体力ではクラスⅢ、Ⅳの製品開発が難しいことや、ニーズの目利きなどの課題も指摘されている。医療機器は様々な部素材や技術から構成されることから、中小企業の強みを踏まえ、そうした企業群をとりまとめる旗振り役の必要性なども指摘された。

<追加的な調査実施の必要性>

- ・ 医療機器産業振興の議論は、これまで医療機器メーカーを主眼に行われてきたが、日本企業がグローバルで戦うという論点に立つと、CDMO や異業種参入の実態や課題、スタートアップ支援のあり方、水平分業や産業構造改革の在り方など、未だ、整理が不十分なところも多い。
- ・ 開発には様々なプレイヤーが関係してくることを踏まえると、今後は、製造業、ものづくり企業側からの視点、さらにはスタートアップと利用現場における医師、学会等の視点に立った深堀調査を行い、議論をしていく必要がある。